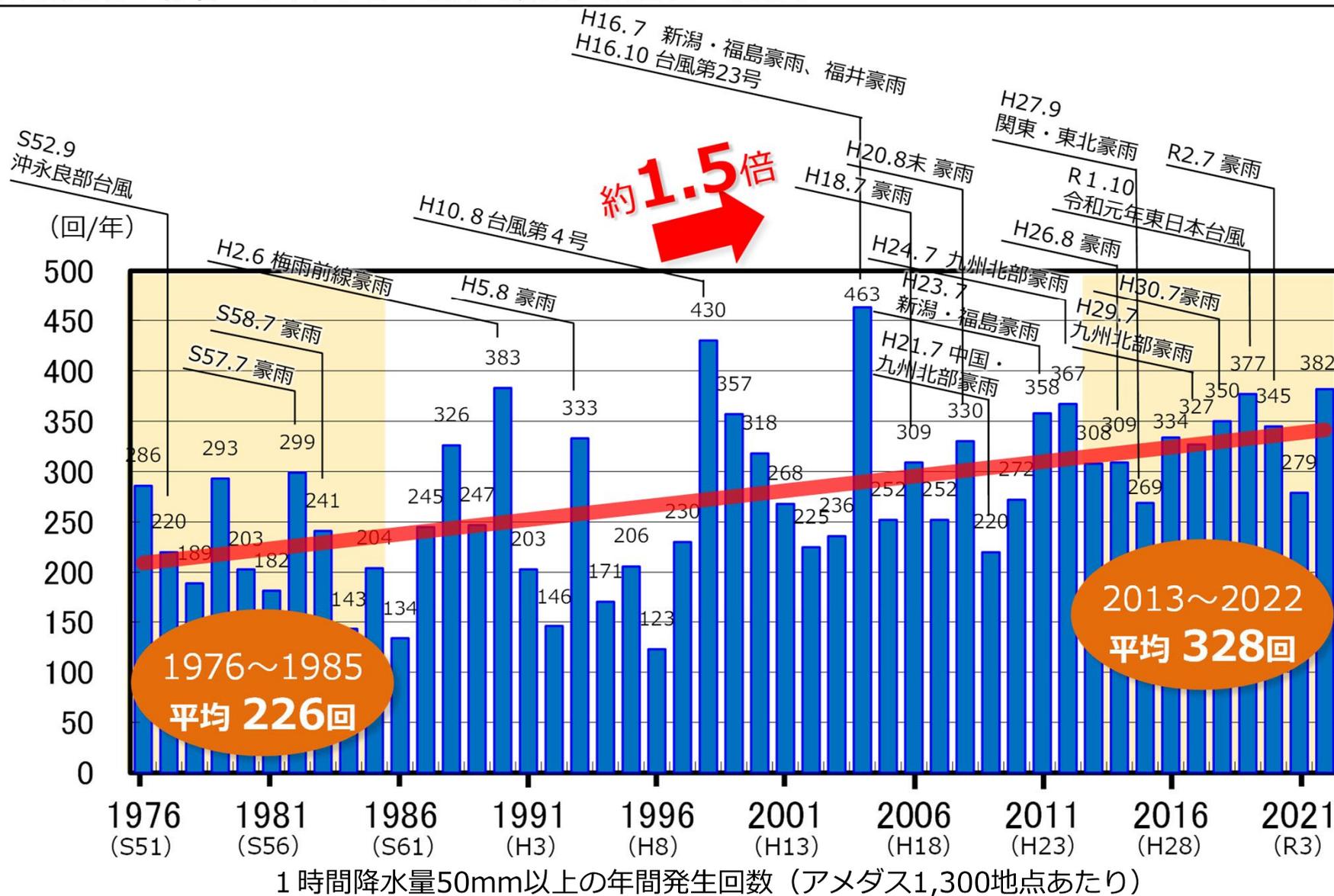


気候変動を踏まえた流域治水の推進

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 調査課(河川)
令和6年11月7日

近年、雨の降り方が大きく変化

- 時間雨量50mmを超える短時間強雨の発生件数が増加。
- 気候変動の影響により、水害の更なる頻発・激甚化が懸念。



*気象庁資料より作成 (気象庁が命名した気象現象等を追記)

○気候変動による災害の激甚化・頻発化を踏まえ、河川管理者が主体となって行う河川整備等の事前防災対策を加速化させることに加え、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」への転換を推進し、総合的かつ多層的な対策を行う。

流域治水：流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策

堤防整備等の氾濫をできるだけ防ぐための対策

- ・堤防整備、河道掘削や引堤
- ・ダムや遊水地等の整備
- ・雨水幹線や地下貯留施設の整備
- ・利水ダム等の洪水調節機能の強化

まず、対策の加速化



被害対象を減少させるための対策

- ・より災害リスクの低い地域への居住の誘導
- ・水災害リスクの高いエリアにおける建築物構造の工夫

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・中高頻度の外力規模（例えば、1/10,1/30など）の浸水想定、河川整備完了後などの場合の浸水ハザード情報の提供

○気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
 ○治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域を含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策、をハード・ソフト一体で多層的に進める。

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大 集水域
 [県・市、企業、住民]
 雨水貯留浸透施設の整備、
 ため池等の治水利用

流水の貯留 河川区域
 [国・県・市・利水者]
 治水ダムの建設・再生、
 利水ダム等において貯留水を
 事前に放流し洪水調節に活用

[国・県・市]
 土地利用と一体となった遊水
 機能の向上

**持続可能な河道の流下能力の
維持・向上**
 [国・県・市]
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、
 雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす
 [国・県]
 「粘り強い堤防」を目指した
 堤防強化等

②被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導 氾濫域
 住まい方の工夫 浸水範囲を減らす
 [県・市、企業、住民]
 土地利用規制、誘導、移転促進、
 不動産取引時の水害リスク情報提供、
 金融による誘導の検討

[国・県・市]
 二線堤の整備、
 自然堤防の保全



③被害の軽減、早期復旧・復興の ための対策

土地のリスク情報の充実 氾濫域
 [国・県]
 水害リスク情報の空白地帯解消、
 多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する
 [国・県・市]
 長期予測の技術開発、
 リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化
 [企業、住民]
 工場や建築物の浸水対策、
 BCPの策定

住まい方の工夫
 [企業、住民]
 不動産取引時の水害リスク情報
 提供、金融商品を通じた
 浸水対策の促進

被災自治体の支援体制充実
 [国・企業]
 官民連携によるTEC-FORCEの
 体制強化

氾濫水を早く排除する
 [国・県・市等]
 排水門等の整備、排水強化

- 「流域治水プロジェクト」は、国、流域自治体、企業等が協働し、河川整備に加え、雨水貯留浸透施設や土地利用規制、利水ダム の事前放流など、各水系で重点的に実施する治水対策の全体像を取りまとめたものであり、全国109の一級水系、約500※の二級水系で策定・公表(R5.3末時点)。
- 今後、関係省庁と連携して、プロジェクトに基づくハード・ソフト一体となった事前防災対策を一層加速化するとともに、対策の更なる充実や協働体制の強化を図る。

※河川整備計画を策定済みの水系のみ集計

【ポイントその①】 様々な対策とその実施主体が見える化

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、ダム建設・再生、砂防関係施設や雨水排水網の整備 等



河道掘削
(石狩川水系、北海道開発局)



公園貯留施設整備
(名取川水系、仙台市)



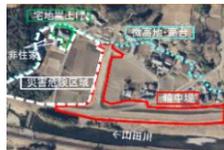
用水路の事前水位低下による雨水貯留
(吉井川水系、岡山市)

② 被害対象を減少させるための対策

- ・土地利用規制・誘導、止水板設置、不動産業界と連携した水害リスク情報提供 等



二線堤の保全・拡充
(牂川水系、大洲市)



災害危険区域設定
(久慈川水系、常陸太田市)



住宅地盤嵩上げに対する助成
(梯川水系、小松市)

③ 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

- ・マイ・タイムラインの活用、危機管理型水位計、監視カメラの設置・増設 等



自主防災活動による畳堤設置
(揖保川水系、たつの市)



避難訓練の支援
(五ヶ瀬川水系、高千穂町)



公園等を活用した高台の整備
(庄内川水系、名古屋市)

【ポイントその②】 対策のロードマップを示して連携を推進

- ・ 目標達成に向けた工程を段階的に示し、実施主体間の連携を促進

- 短期：被災箇所の復旧や人口・資産が集中する市街地等のハード・ソフト対策等、短期・集中対策によって浸水被害の軽減を図る期間(概ね5年間)
- 中期：実施中の主要なハード対策の完了や、居住誘導等による安全なまちづくり等によって、当面の安全度向上を図る期間(概ね10年～15年間)
- 中長期：戦後最大洪水等に対して、流域全体の安全度向上によって浸水被害の軽減を達成する期間(概ね20～30年間)

<ロードマップのイメージ>

区分	主な対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策	河道掘削	河川事務所、都道府県、市町村	→	→	→
	ため池等の活用	市町村	→	→	→
被害対象を減少させるための対策	浸水リスクの低いエリアへの居住誘導	市町村	→	→	→
	浸水防止板設置	市町村	→	→	→
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	公園を利用した高台整備	市町村	→	→	→
	地区タイムラインの作成	都道府県、市町村	→	→	→

【ポイントその③】 あらゆる関係者と協働する体制の構築



流域治水協議会開催の様子

- ・ 全国109の一級水系全てにおいて、総勢2000を超える、国、都道府県、市町村、民間企業等の機関が参画し、協議会を実施。
- ・ 地方整備局に加え、地方農政局や森林管理局、地方気象台が協議会の構成員として参画するなど、省庁横断的な取組として推進

- 加古川河口部や中流部、支川などで洪水時の水位を下げるために、河道掘削を実施
- 洪水の流水を安全に流すために必要となる堤防の整備を実施

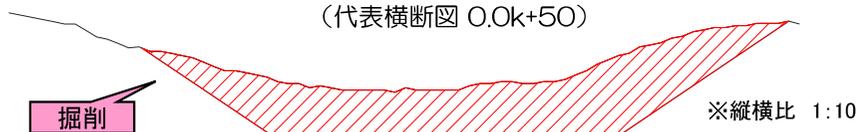
加古川河口部における河道掘削

中上流部における改修による下流部の流量増への対応として、また、整備計画目標流量に対する流下能力確保に向けて、高砂・尾上地区等において河道掘削を実施。河道掘削は干潟を保全するため、干潟以外の部分の掘削を行っている。



H. W. L

(代表横断面図 0.0k+50)



加古川中流部における河道掘削

施工前



施工後



河川整備計画に基づき、西脇市福地地区において流下能力向上を図る河道掘削を実施 (取組事例：兵庫県)

- ため池や水田などの既存の農業用施設を活用した治水対策に取り組む
- 兵庫県及び関係市町が連携し、堰板の配布や普及啓発を行い、田んぼダムによる雨水の流出抑制に取り組む

ため池の治水活用

事前に水位を下げ治水活用容量を確保し、
雨水流出による被害低減に取り組む。



<ため池の水位調整>
台風前などに事前放流
を実施。
(取組事例：加東市)

田んぼダム

水田を許容湛水とし雨水の流出の
抑制を図り、雨水流出による被害
軽減をはかる。

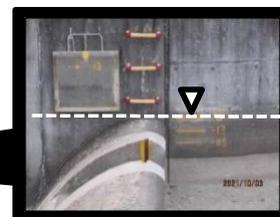
<田んぼダムの整備>
堰板の設置
(取組事例：加東市)



期間放流の状況（大日池）



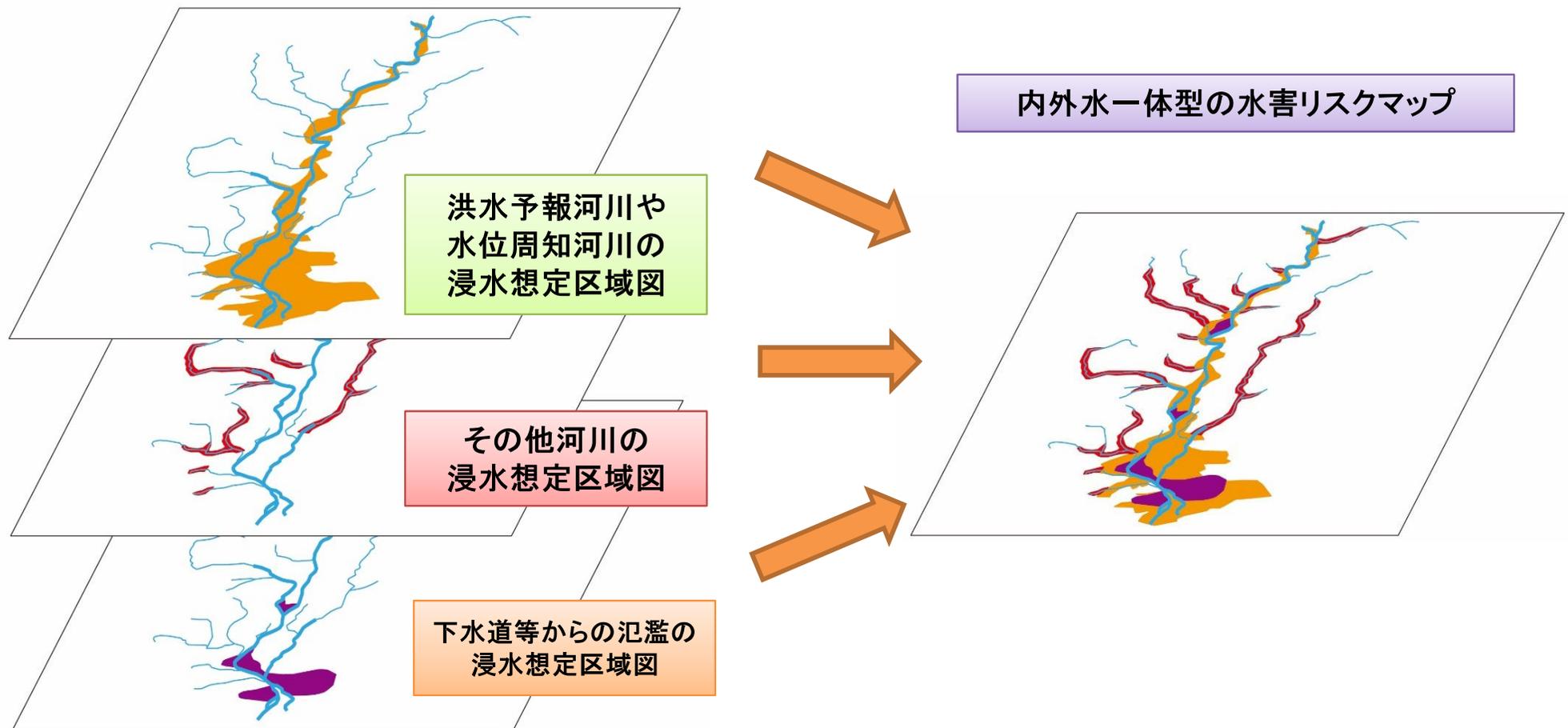
期間放流の状況（惣毛池）



<ため池事前放流設備の整備>
事前に水位を下げる事が可能となる切り欠きなどを整備し、
洪水発生を抑制。市内ため池16箇所で開催放流（9～10月）
を実施。
(取組事例：高砂市内のため池管理者)

- 洪水予報河川や水位周知河川のみならず、その他河川や下水道等からの氾濫を明らかとすることで、**水害リスク情報の空白地の解消が重要。**
- 現在管理者別に作成・提供されている浸水ハザード情報図について、**洪水予報河川や水位周知河川の氾濫、その他河川の氾濫(外水氾濫)、下水道等からの氾濫(内水氾濫)を重ね合わせて表示。**

内外水一体型の水害リスクマップ作成

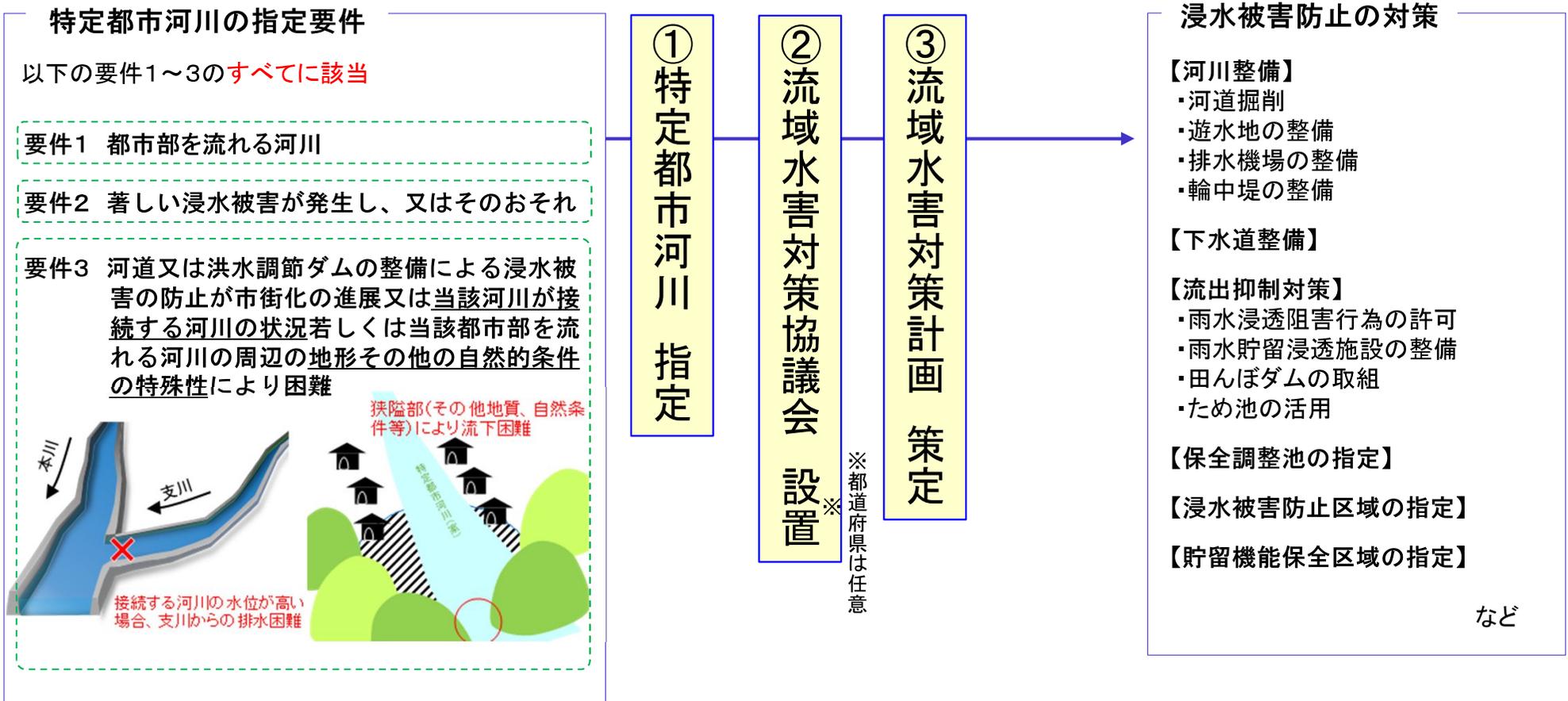


内外水一体型の水害リスクマップ(概念図)

特定都市河川指定から対策実施までの流れ

- 特定都市河川・流域では、河川整備の加速化とともに雨水の流出抑制や水害リスクを踏まえたまちづくり・住まい方の工夫等の対策を推進。
- そのために、①3つの要件を満たす河川を**特定都市河川として指定**後、②流域の関係者で構成する「**流域水害対策協議会**」を設置し、③浸水被害防止の対策等をまとめた「**流域水害対策計画**」を策定。

■特定都市河川指定から対策実施までの流れ



○浸水被害対策の総合的な推進のための流域水害対策計画(河川管理者、下水道管理者、都道府県知事、市町村長が共同)の策定、河川管理者等による施設整備の加速化、地方公共団体や民間事業者等による雨水貯留浸透施設の整備、雨水の流出を抑制するための規制、水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり等、流域一体となった浸水被害の防止のための対策を推進



令和6年～令和15年の 加古川下流域における県・市町の取組み

令和6年11月7日

主な取り組み内容

河川下水道対策

- (1) 下流域ブロック（護岸整備等①） 1
- (2) 下流域ブロック（護岸整備等②） 2
- (3) 下流域ブロック（雨水幹線整備） 3
- (4) 下流域ブロック（排水機場・ポンプ等） 4

流域対策

- (1) ため池 5
- (2) 田んぼダム 6
- (3) 治水活用に関する啓発 7
- (4) 森林の整備及び保全 8
- (5) 校庭貯留・公園内雨水貯留 9
- (6) ダム事前放流 10

減災対策

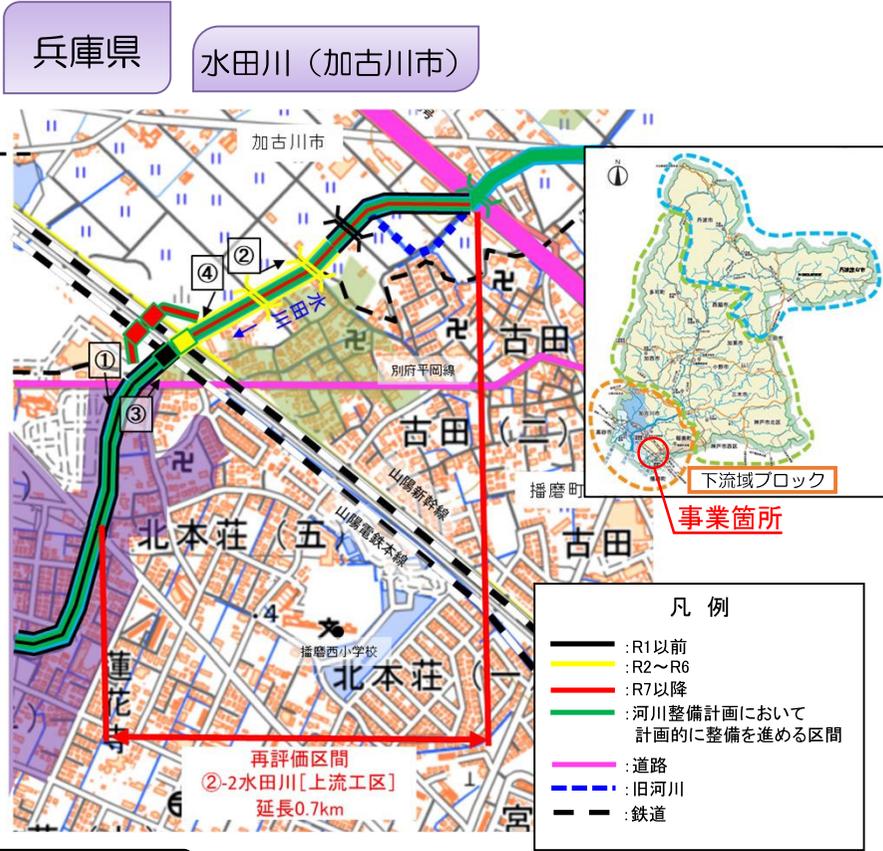
- (1) 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握 11
- (2) 浸水による被害の発生に係わる情報の伝達 12
- (3) 浸水による被害の軽減に関する学習 13
- (4) 浸水による被害からの早期の生活の再建 14



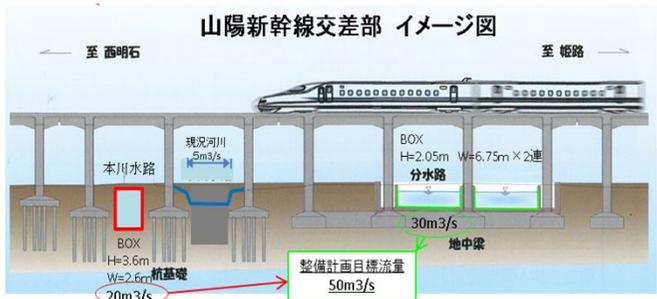
東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)
位置図

河川下水道対策

(1) 下流域ブロック (護岸整備等①)



横断面



完成区間



護岸完成区間



残事業区間



工程表

— : 実施・計画

種別	H21 ~ R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
用地買収	—															
河道改修	—	—	—	—	—	—									—	—
橋梁	—	—	—	—	—											
鉄道交差部 (本川水路)	—	—														
鉄道交差部 (分水路)						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

河川下水道対策

(2) 下流域ブロック (護岸整備等②)

兵庫県

喜瀬川 (加古川市)



工程表

— : 実施・計画

工程	年度														
	~H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
調査設計	■	■													
用地測量	■	■	■												
用地補償	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
掘削	■												■	■	■
河道改修 (築堤・護岸)	■		■	■	■	■	■						■	■	■
橋梁															■ (国) 喜瀬川橋 ■ (市) 土山橋

完成区間



残事業区間



※令和4年度事業評価 二級河川喜瀬川水系喜瀬川

河川下水道対策

(3) 下流域ブロック（雨水幹線整備）

- ・加古川流域内において、内水の氾濫を防ぐため関係機関が連携して対策を実施
- ・雨水幹線の整備を実施

市町

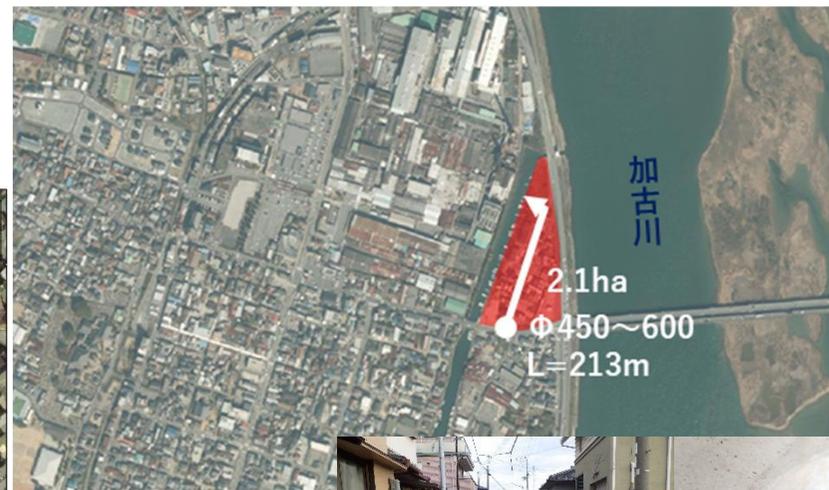
下水道（雨水幹線、排水ポンプ場）の整備・運用



< 雨水幹線整備 >
別府川第14排水区調整池
整備工事 V = 10,000m³
(取組事例：加古川市)

< 下水道の整備 >

公共下水道事業計画及び流域関連公共下水道事業計画に基づき、雨水管、雨水ポンプの整備を推進し、内水による水害リスクの軽減を図る。(取組事例：高砂市)



河川下水道対策

(4) 下流域ブロック (排水機場・ポンプ等)

○排水機場・防潮水門は、令和5年度に完成し、今後は防潮堤防の整備を予定している。

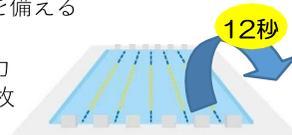
高砂市

松村川防潮水門・排水機場



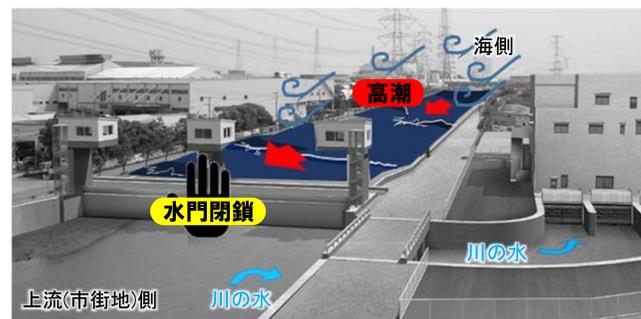
<<建物の概要>>
 敷地面積: 4,983㎡ (排水機場全体)
 構造: 鉄筋コンクリート造2階建
 建築面積: 726㎡ (延870㎡)
 建物高さ: 18.6m (地上面から)

- 排水機場には毎秒34㎡の水を排水することができるポンプを備える
(今回工事では毎秒23㎡の段階整備)
→学校のプール(390㎡換算)の水を約12秒で空にできる能力
- 防潮水門は幅約20m、高さ5.8mのステンレス製ゲートを2枚
- 排水機場、防潮水門ともに兵庫県内では最大級の規模



役割

①高潮の逆流を防ぐ

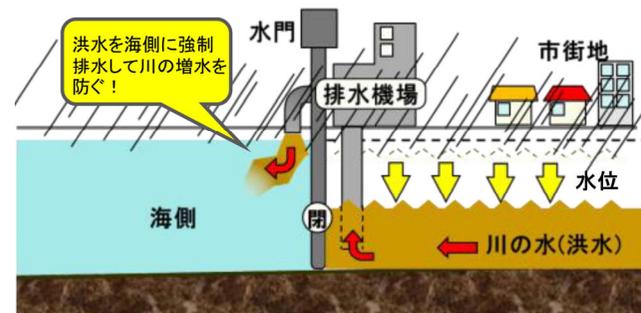


(高潮時のイメージ)

- ・台風時などに、海から押し寄せる高潮※を水門で食い止め、市街地への進入を防ぐ。
- ・排水機場を使い、水門閉鎖中に上流から流れてきた松村川の水を強制的に海側へ排水する。

※計画高潮位: 3.0m (TP)

②大雨時に松村川の水位を下げる



- ・大雨時に、排水機場を使い、上流から流れてきた松村川の水を強制的に海側へ排水して川の水位を下げ、市街地へ水があふれ出るのを防ぐ。
(潮位と雨量の変化に応じて、水門と排水機場を効果的に組み合わせて操作する)

海抜が低く潮位の影響を受けやすい
 高砂市の地形では、
 特に大きな治水効果を発揮する

流域対策

(1) ため池

○洪水吐や取水施設を活用した取り組みを令和5年度までに169箇所を実施している。今後も施設管理者と協議し、継続していく。

県の事例

○水利施設管理強化事業（特別型）

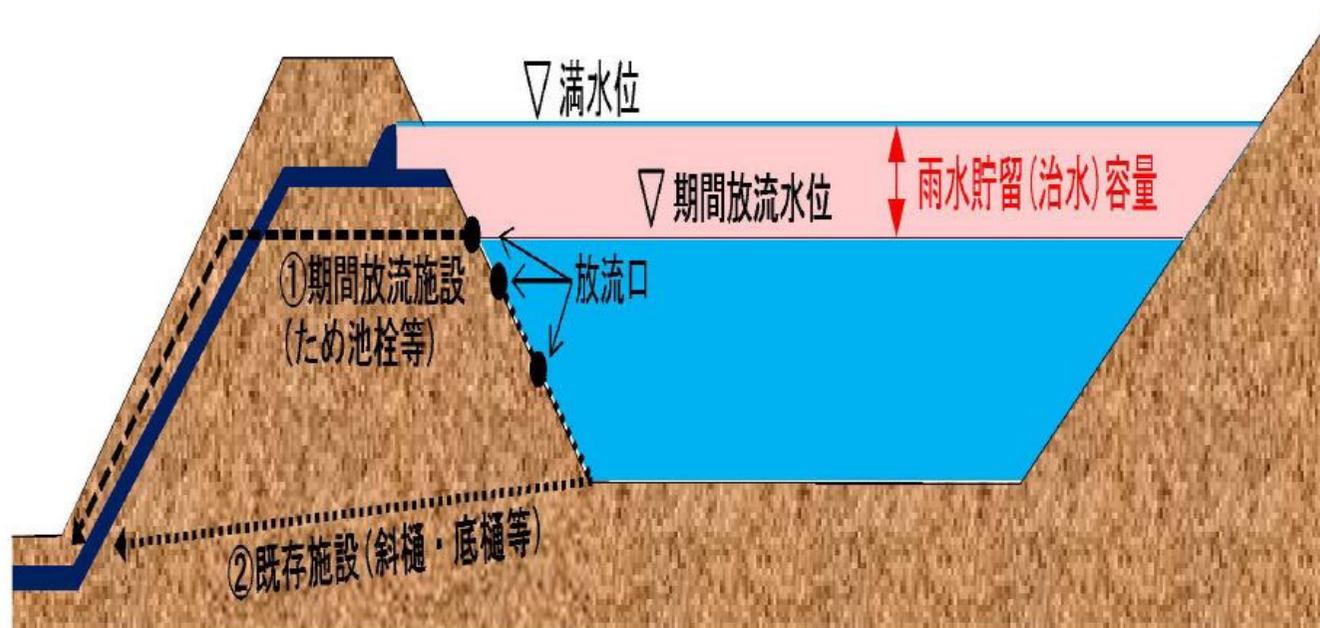
- ・大雨時の雨水の流入に備え、これまでの「ため池治水活用拡大促進事業」と同様に出水期〔6月～10月〕のうち少なくとも1ヶ月以上）を定めてため池の水位を常時下げておくため池管理者の取組に対し、施設の操作・点検等を円滑に実施するための費用を国、県並びに市町が支援する事業

- ・治水活用の推進にかかる研修会の費用等についても助成対象

※事業を行うには、兵庫県総合治水条例に基づく『指定雨水貯留浸透施設』もしくは『指定貯水施設』に指定することが要件となる。

【例】期間放流（9月から10月で実施する場合）のため池治水活用の取組イメージ

①新たに設置する放流施設や、②既存の施設を活用し、翌年の営農に支障のない範囲で期間を定めて水位を下げ、雨水貯留(治水)容量を確保



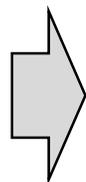
流域対策

(2) 田んぼダム

- 令和5年度までに2,890haの水田を対象にせき板の配布を完了しており、その機能維持を図る。
- 地域内のほ場整備済み区域面積は、約19,500haであり、さらに取り組みを推進し地域の安全度を高める取り組みを継続していく。

田んぼダムとは

田んぼダムは、水田が有する貯水機能を利用した取組であり、大雨の際、一時的に雨水を貯留することにより下流への水量を調整し、下流域の浸水被害の軽減を図る手法

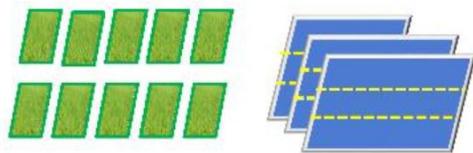


集落毎の意見交換等を踏まえ、営農者等の理解と協力を得た上で取り組んでいる。

【田んぼダム用せき板の使い方】



せき板の上に田んぼダム用せき板をのせる

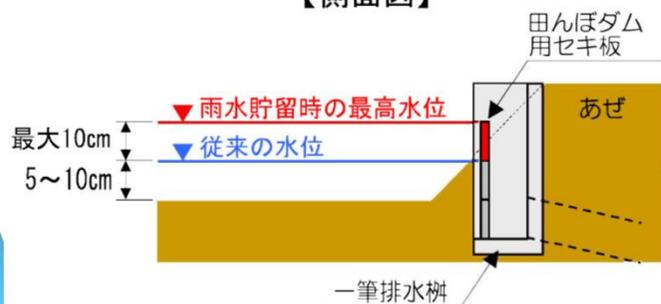


田んぼダムを実施すると・・・
田んぼ10枚（1枚1,000m²）で
25mプール約2.8杯分溜まります。
（幅12m、長さ25m、深さ1.2mの場合）

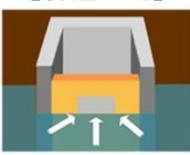
**上流で実施することで、
下流域の被害がさらに軽減できます！**



【側面図】

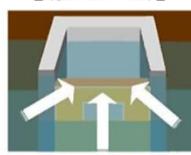


【普通の雨】



切欠から排水

【激しい雨】



一次的に水位が上がり、せき板を越流し排水



流域対策

(3) 治水活用に関する啓発（ため池）

○ため池管理者にため池の保全の必要性や流出抑制効果などについて、十分な周知を図り、ため池の治水活用への取り組みを推進する。

県の事例

ため池マニュアルや解説動画を作成し、毎年更新

【令和6年度版の主な内容】

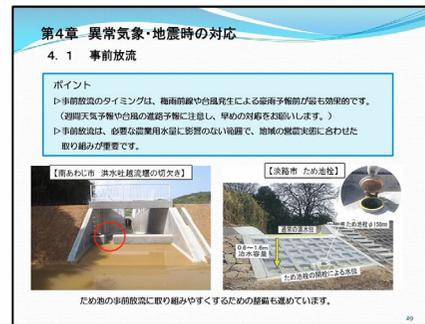
- ・「第6章ナガエツルノゲイトウについて」を追加



ため池管理マニュアル（令和6年度）



ため池管理マニュアル解説動画（令和6年度版）



県の事例

「ため池の保全に関する様々な情報提供を行うため「ひょうごため池だより」を定期的に発行



ひょうごため池だより（令和6年6月）

流域対策

(4) 森林の整備及び保全（県の取り組み）

○森林管理により、土砂流出の抑制や斜面崩壊防止の抑制を図る。

災害に強い森づくり（第4期対策：令和3～7年度まで）

兵庫県では、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして平成18年度から「県民緑税」を導入し、「災害に強い森づくり」を行っている。

【事業内容】

1. 緊急防災林整備（斜面对策）：危険斜面の表面侵食防止機能を強化
緊急防災林整備（溪流対策）：危険溪流沿いの森林の防災機能を強化
2. 里山防災林整備：人家裏山での防災機能を強化
3. 針葉樹林と広葉樹林の混交整備：気象災害や土砂災害防止機能を強化
4. 野生動物共生林整備：人と野生動物がすみ分けできる森林を育成
5. 住民参画型森林整備：地域住民による主体的な取組の推進
6. （都市山防災林整備：六甲山系の防災機能を強化）



1. 緊急防災林整備（溪流対策）
溪流沿いの森林整備とともに簡易な防災設備を設置し、林地を保全
（加西市大工町）



2. 里山防災林整備
人家裏山での森林整備による防災機能の強化
（加古川市志方町西中）



3. 針広混交林整備
針葉樹をパッチワーク状に伐採し、根張りがよく
防災機能を高める広葉樹を植栽
（多可町中区西安田）



4. 野生動物共生林整備
農地や集落と接する林縁部を伐採し、野生動物
の隠れ場所をなくすことで、獣害等を予防
（加西市三口町）

流域対策

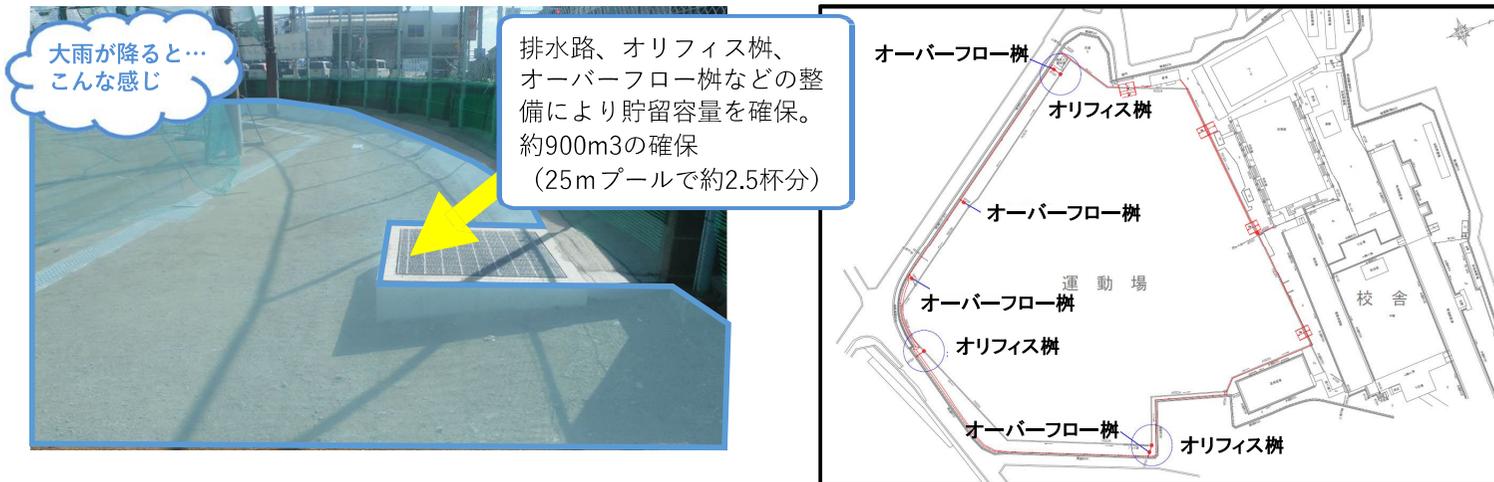
(5) 校庭貯留・公園内雨水貯留

○令和5年度までに市立中学校で排水路、オリフィス柵など校庭貯留の整備、県立都市公園や総合庁舎では雨水タンクの設置などの雨水貯留の整備を行っている。

○今後も、学校、都市公園などの施設で貯留施設を整備し、雨水の流出抑制効果を高める取り組みを継続していく。

【加古川市：市立平岡中学校】

加古川市立平岡中学校で校庭貯留施設を整備（平成28年度整備）施設整備により、降った大雨が一度に流れ出ることを抑制し、少しずつ流すことで下流への負担を軽減する。



【高砂市：高砂市役所】



高砂市役所で雨水貯留タンクを設置

- ・屋根に降った雨水を貯留タンクに貯留する取り組みで、個々の施設は小さいが、地域で取り組みれば雨水の流出抑制効果を高める機能を発揮する。
- ・貯留した雨水を、樹木への散水や庭への打ち水などに利用することで、雨水の有効活用を図り、良好な水循環型社会を創出するものである。

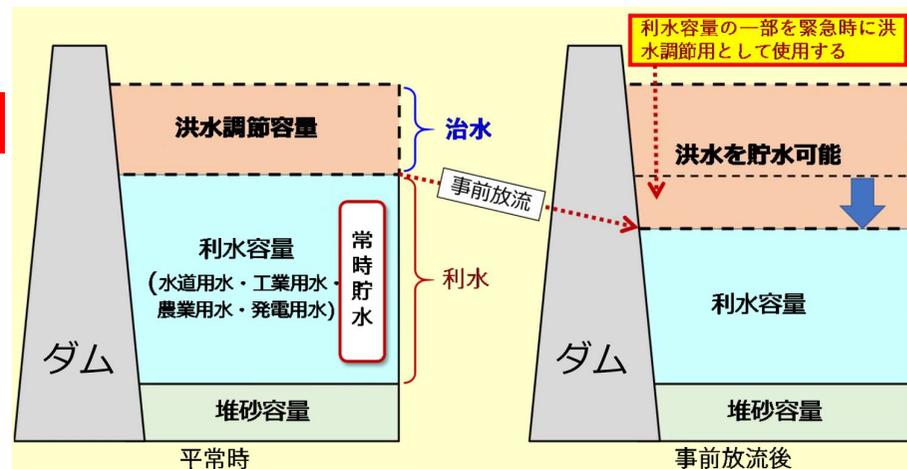
流域対策

(6) ダム事前放流

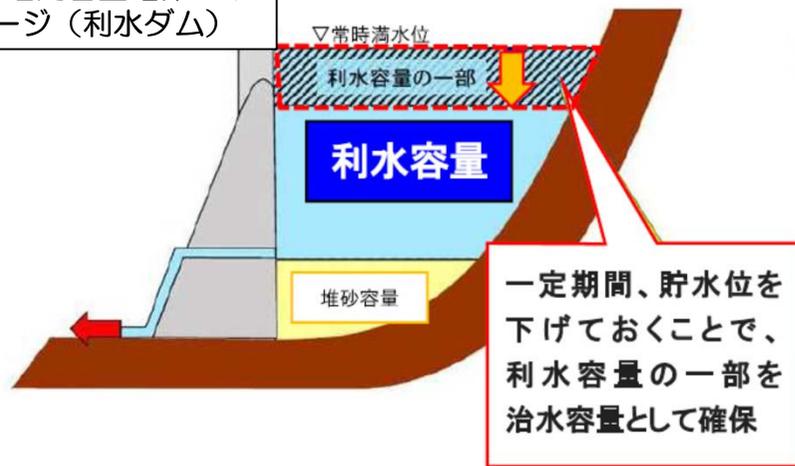
○県管理の多目的ダムのみくまりダム、農業用ダムの鏑市ダム、藤岡ダム、八幡谷ダム、佐仲ダム、工業用水道専用ダムの権現第一ダム・権現第三ダムについては、既存ダムの洪水調節機能強化を推進するため、国、兵庫県、各市等の9機関による「加古川水系治水協定」を令和2年5月に締結し、事前放流を実施している。今後も事前放流を実施することで、下流域の被害の防止・軽減を図る。



治水活用容量確保のイメージ (多目的ダム)



治水活用容量確保のイメージ (利水ダム)



減災対策

(1) 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握

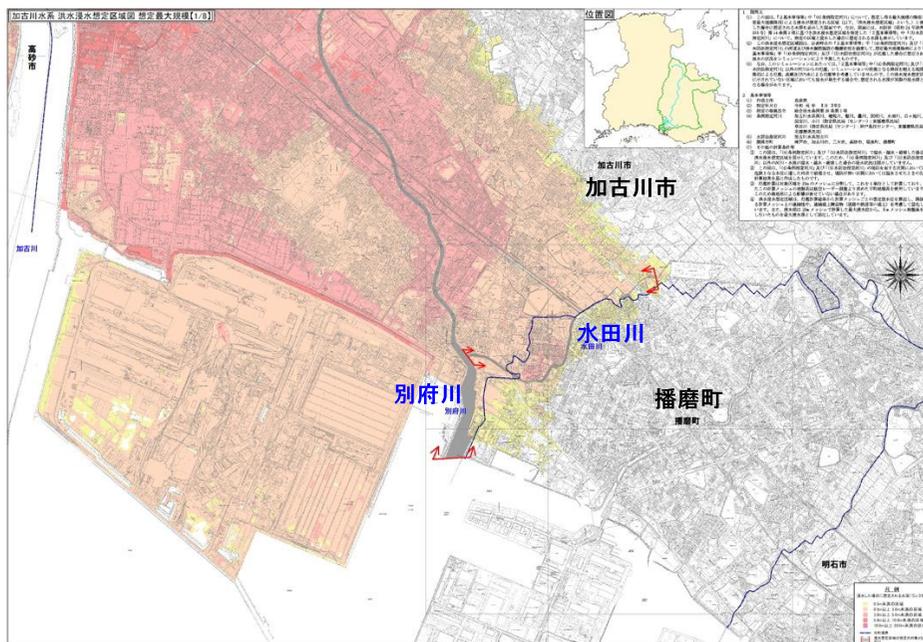
想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図

兵庫県では、県が管理する全ての河川について、想定し得る最大規模の降雨〔想定最大規模降雨〕による洪水浸水想定区域図等を作成している。県民の皆様には、水害のリスクを確認いただき、避難等に役立てていただけるよう公表している。

※想定最大規模降雨及び計画規模降雨による洪水浸水想定区域図については、兵庫県CGハザードマップに掲載し公表している。

【公表している洪水浸水想定区域等】

区域図	想定規模	内容と目的
①洪水浸水想定区域	想定最大規模降雨 (1/1000年確率規模以上)	〔内容〕 浸水範囲と浸水深さ 〔目的〕 県民の主体的避難や市町防災計画の策定等支援
②浸水継続時間		〔内容〕 浸水深0.5m以上が継続する時間 〔目的〕 避難方法(垂直or水平)の選択等
③家屋倒壊等氾濫想定区域		〔内容〕 氾濫流又は河岸侵食により家屋等の流出・倒壊のおそれがある範囲 〔目的〕 水平避難の必要性の判断等



洪水浸水想定区域（加古川下流圏域）



兵庫県
浸水想定区域確認ガイド

減災対策

(2) 浸水による被害の発生に係わる情報の伝達

- CGハザードマップ（各種浸水想定区域や河川水位等のリアルタイム情報や河川のライブ映像、防災学習等の情報の発信）
- ひょうご防災ネット（緊急情報や、地震、津波、気象情報などの防災に関する様々な情報の提供）



CGハザードマップ



ひょうご防災ネット

スマートフォンアプリ版!

「ひょうご防災ネット」は兵庫県および兵庫県内の市・町から「避難に関する情報」などの緊急情報や、地震、津波、気象警報などの防災に関する様々な情報を利用者の方々に提供するサービスです。いつ発生するかわからない災害に備え、ぜひダウンロードしてください!!

主な機能

避難に関する情報や各種気象情報などをプッシュ通知!



- 主な配信情報
- 兵庫県、市・町からの緊急情報
 - 避難関係情報
 - 避難所関連情報
 - 加圧保護に関する情報
 - 土砂災害危険度のリアルタイム情報
 - 防災注意報、警報
 - 気象警報、市・町からのお知らせ情報
 - 地震情報
 - 気象警報・特別警報
 - 記録的短時間大雨情報
 - 土砂災害警戒情報
 - 河川洪水警報
 - 防災登録情報

いざという時に備え「マイ避難カード」を作成



いざというときに、速やかに避難行動がとれるように、学びながら自身で考えた避難行動に移るタイミング(逃げ時)や避難場所をアプリ内「カード」に保存できます。また、保存した逃げ時に関する情報をプッシュ通知で受け取る「マイ避難カード」を表示します。

【氾濫危険水位到達情報】

兵庫県内の水位局知河川(洪水により相当の被害が生ずるおそれのある河川)について、氾濫危険水位に到達したときにプッシュ通知でお知らせします。(最大6か所まで登録可能)

【大雨危険度情報】

設定した市・町の大雨の危険度(土砂災害、洪水、濁水害)が警戒以上上昇したときにプッシュ通知でお知らせします。危険度が高まっている場所を気象庁の「危険度分布マップ」で確認してください。(登録市町村数の制限なし)

避難場所を地図で検索



12外国語対応

配信された緊急情報を自動翻訳して表示します。

- 中国語 (簡体字・繁体字)
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 韓国語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語
- ベトナム語

防災情報ポータルサイト

災害時に役立つと思われる、ポータルサイト(防災情報のリンク集)です。

音声読み上げ

スマートフォンの音声読み上げ機能を使い、配信した情報を読み上げることができます。

ひょうご防災ネット

減災対策

(3) 浸水による被害の軽減に関する学習

- ・ひょうご防災リーダー養成講座（地域防災の担い手となるリーダーの育成）
- ・自主防災力パワーアップ講座（防災減災活動に興味を持たれる方を対象にした講座）

令和6年度 ひょうご防災リーダー養成講座



1月1日に多大な被害を出した「能登半島地震」の発生を皮切りに、4月3日に「台湾花蓮地震」、4月7日に「豊後水道地震」と立て続けに巨大地震が発生しています。

一方で地球温暖化の影響もあり、土砂災害・洪水などの豪雨災害や台風が毎年多発しています。このような災害による被害を少しでも軽減するためには、県民一人一人が**自分たちの街は自分たちで守る**という地域での防災の取組を一層推進することが不可欠です。

兵庫県立広域防災センターでは、**地域防災の担い手となるリーダーの育成**を目的に、防災減災の最新の課題と教訓を学ぶ「令和6年度ひょうご防災リーダー養成講座」を9月から12月まで、計7日間開講します。

日程：
1回 9月7～8日（土・日）
2回 10月26～27日（土・日）
3回 11月9～10日（土・日）
4回 12月1日（日）

会場：兵庫県立広域防災センター
募集人員：130名（宿泊50名、日帰り80名）
募集期間：令和6年7月20日（土）午前10時～
定員に達し次第終了
料金：受講料は無料、
食事と宿泊は有料（希望者のみ）

受講対象： 兵庫県在住・在勤・在学（中学生以上；中学生は保護者同伴の場合、申込可能）で、現在又は今後、自主防災組織で活躍され、自らの地域で積極的に地域防災の担い手として活動しようとする方。
※過去に本講座を修了し、既に「ひょうご防災リーダー」の称号が授与された方は応募することができません。

修了要件：
○ 合計21時限を受講できる方（初日と最終日は必ず受講すること）
○ 11月10日までに履修確認レポートを提出できる方（後日配布）
○ 11月10日までに普通救命講習の修了証を提出できる方（有効期間は令和3年12月1日から令和6年12月1日まで、大人の心肺蘇生法及びAEDの使い方3時間コース）

修了すると：
○ 知事名の修了証と「ひょうご防災リーダー」の称号が授与され、地域防災の担い手として活動していただけます。
○ 日本防災士機構が認定する防災士の受験資格が付与されます。
○ 居住地（又は勤務地）の県民局、市町に修了者名簿を送付し、活動機会を提供します。

申込方法： インターネットにて、広域防災センターの「ひょうご防災リーダー講座」のページからお申込みください。

<お問い合わせ> 〒673-0516 三木市志染町御坂1-19 兵庫県立広域防災センター 防災教育担当
電話：0794-87-2920（代表） 0794-87-2928（防災教育）

ひょうご防災リーダー育成講座

自主防災力



パワーアップ講座のご案内

災害時の避難行動や避難所での対応について学び、実際に体験することで、災害に強いコミュニティを作りましょう。<

開催日時	開催場所	プログラム
12月14日（土） 15日（日） 【午前】10:00～12:00 【午後】13:30～15:30 各日2回実施	加東市 やしろ国際学習塾 多目的室 （加東市上三草 1175）	・ワークショップ「災害時どうする？高齢者や障害者の避難行動、避難所での対応」 ・体験プログラム（災害時における「食」について） ※4回のうちいずれか1回にご参加下さい。

対象者：西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町にお住まい、おつとめの**防災・減災活動に興味がある地域の皆さま**
※プログラムは変更になる場合がありますので、予めご了承ください。県広報等への掲載のため、当日の研修風景の写真撮影を行います。

募集期間：令和6年9月13日（金）～12月6日（金）
午前9時から受付開始
（各回定員40名 先着順）

参加費：無料
申込方法：電子申請サービスでお申し込み下さい。
申請URL・QRコードは次項参照。
次項様式に必要事項を記入の上、郵送・FAX送信によるお申し込みも可能です。



皆さまのご参加を
お待ちしております。



申し込み・問い合わせ
兵庫県北播磨県民局総務企画室総務防災課
〒673-1431
兵庫県加東市杜字西柿 1075-2
Tel:0795-42-9318 Fax:0795-43-0169

主催：兵庫県北播磨県民局
実施：特定非営利活動法人 兵庫県防災士会

自主防災力パワーアップ講座

減災対策

(3) 浸水による被害の軽減に関する学習

- ・マイ避難カードの作成支援

「もしものとき」のあなたを守るのは、今のあなた。

作ろう! マイ避難カード

災害時、自分のいのちを守る準備はできていますか?

大切なのは、いざというときに「いつ」「どこに」「どのように」避難すべきかを理解し、備えること。
災害にいろいろな種類があるように、避難の方法も一つではありません。
避難所やホテル、親戚のおうち、時には自宅避難という選択肢もあります。
マイ避難カードを作成して、災害から大切なあなたの命を守りましょう。

マイ避難カードとは?

災害の種類	土砂災害	名前	兵庫 水部
確認!	気象庁ホームページの土砂災害危険度分布 ○○の標子		
いつ?	土砂災害の危険度分布で赤色(警戒)になったとき または、○○の雨が異常に多かったとき		
どこに?	避難先(例) AB小学校 CD公民館		
どのように?	避難する方(例) 家族と歩いて 家族と歩いて		

自宅がハザードマップの土砂災害警戒区域内にある

「素早く確実な避難」のために。
災害の危険が迫っている時に、「いつ」「どこに」「どのように」避難するかあらかじめ自分で確認し、いざという時、素早く確実に避難できるようにするためのカードです。

避難のこと、マイ避難カードの作成はコチラ。 [マイ避難カード](#) 検索



 兵庫県災害対策課

マイ避難カード作成支援チラシ

(4) 浸水による被害からの早期の生活の再建

- ・フェニックス共済の加入促進

兵庫県が実施する安心の制度

フェニックス共済

【兵庫県住宅再建共済制度】

小さな負担で、大きな安心。

年額 **5,000円** の掛金で
最大 **600万円** の給付!

自然災害で被災した住まいの建築・購入・補修に備える

- 1 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・洪水など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 2 住宅の築年数・規模・構造等に関係なく、定額負担で定額給付です。
- 3 地震保険・他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

フェニックス共済 +

兵庫県  078-371-1000 <https://www.phoenixmutual.jp>

地域	令和6年3月末	
	加入戸数	加入率
東播磨	25,656	11.4
北播磨	11,050	13.6
丹波	4,437	13.2
地域全体	41,143	12.1
県内全体	166,892	9.4

フェニックス共済の加入促進